

日常に潜む祈りの空間を巡り、地域を想う

1240010 伊藤 夏生

指導教員 渡辺 菊真

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. 背景

1-1. 土佐山田町楠目地区について

土佐山田町楠目地区は旧街道に沿った街村と農村からなる地域で、北側に山があり、いくつかの段丘斜面によって地域が分けられた複雑な地形をもつ地区である。この地区一帯には、神社、先祖神、オサバイなどのたくさんの祈りの空間がある。のどかな風景の中、日常と非日常である「祈りの空間」が豊かに交わる地域と言える。

しかし、戦後の高度経済成長期に車交通を第一に考えられた国道が地域を貫通し、地域は国道を介して南北に分断された。

1-2. 地域と国道と学生

楠目地区の東端には物部川が南北に流れており、その川の対岸に高知工科大学がある。楠目を貫く国道は、学生の通学路であり、国道を中心とした空間が日常となっている。このことに慣れてしまうと、地域が国道によって分断されている現在の状況に気づけない。その結果、地域にある、たくさんの祈りの空間は日常の中に埋もれてしまい、私達学生は祈りの空間とつながり生活してきたかつての地域の豊かさを知らないまま過ごしてしまう。現在地方の大学は、大学が所在する地域にいかに関与できるかが問われている。そんな中、地域で過ごす学生が地域のことに気づけず、地域を知らずに過ごすことは大きな問題であると考えます。

1-3. 地域の祈りの空間に気づくために意識の切り替えができる建築を

国道が日常生活の中心である現在の状況は、意識の切り替えによって脱却できるのではないかと考える。そこで、意識の切替を可能にする建築空間を作成し、その空間体験を通して、意識を切り替ええるとともに、地域への気づきを促せるのではないかと考えた。

2. 目的

本設計では、国道の敷設により見えづらくなった、祈りの空間とともにある地域空間の豊かさに気づかせる建築を設計する。

この建築を起点に地域を巡り、祈りの空間にふれることで地域を大切に思う気持ちが育まれていくことを目的とする。

学生自身の建築実践を通じて、地域の豊かさを学ぶこ

とを意図しているため、この建築を建設、維持する主体は、高知工科大生とする。

以下、この建築を意識切替空間と呼称する。

3. 設計指針

計画の指針

- ① 全体領域として楠目地区を対象とする。
- ② 楠目地区から国道で分断された、祈りの空間のある魅力的な地域を選定する。
- ③ 多くの学生が通り、気づきやすい国道沿いに意識切替空間を設置する。
- ④ 意識切替空間の形状によって国道で地域が分断されている状況に気づく。
- ⑤ 意識切替空間によって意識が切り替わるとともに分断された地域を巡るきっかけを与える。
- ⑥ 地域を巡り、祈りの空間のある豊かさを感じることで地域の魅力に改めて気づかせる。

意識切替空間の指針

- ① 国道沿いに構築する。
- ② 現在の道や地形が国道 195 号線によって切断されていることに気づかせる形状とする。
- ③ 常に身の回りであるが、普段は気に留めなくなってしまう光や空、風などの自然を象徴的に感じる空間とし、より意識の切り替えを促す。
- ④ ②、③により意識を切り替えることで、地域に元々あったが気づかれにくくなった祈りの空間に気づき、地域を巡ってその豊かさを体感する。
- ⑤ 必要最小限の構えとし、学生が少人数で建設、維持管理可能な手作り建築とする。
意識切替空間は主に単管、木板、ガルバリウム鋼板波板を使用して建築する。

4. 設計の内容

4-1. 意識切替空間の配置計画

計画対象地は土佐山田町楠目とし、その中でも国道で分断された祈りの空間のある地域を3つ選定する。

この3つの地域の祈りの空間を以下のように呼称する。

- ① 村の中の点在する「祈りの空間」
- ② 神の石がある大きな「祈

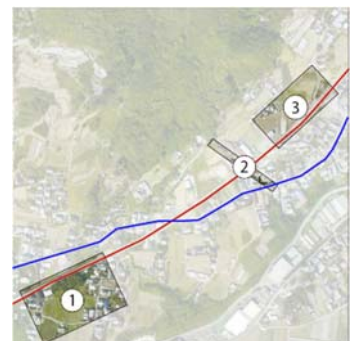


図 1 全体敷地位置
国土地理院地図に国道、旧街道線と敷地位置を追記して掲載

りの空間」

③ 田畑の小道とともにある「祈りの空間」

4-2. 意識切替空間と、地域への誘導計画

① 村の中に点在する「祈りの空間」への意識切替空間設計

敷地概要



図2 南側段丘写真 図3 北側擁壁写真

意識切替空間の選定敷地は北側に擁壁、南側に段丘がある国道沿いとする。

地域の祈りの空間

意識切替空間のある国道沿いの南側に歩を進めると、土佐山田町楠目地区の平田という地域に入る。この地域は、家神、氏神、オサバイの三種類の祈りの空間が点在している。



図4 地域の祈りの空間位置

今昔マップ on the web より地域の祈りの空間位置をプロットして掲載

1933年と現在の地図



図5 1933年地図と現在の地図

今昔マップ on the web より国道線と現在の等高線を追記して掲載

対象敷地の国道による切断の流れ



図6 対象敷地の切断ダイアグラム

I 国道によって分断される前、この場所は斜面であった。

II 国道を通すために斜面の途中を切り取る。

III 水平にした場所に車道を作る。

意識切替空間の形状

元々斜面であったことに気づかせるために、元々の斜面に沿った断面形状とした。

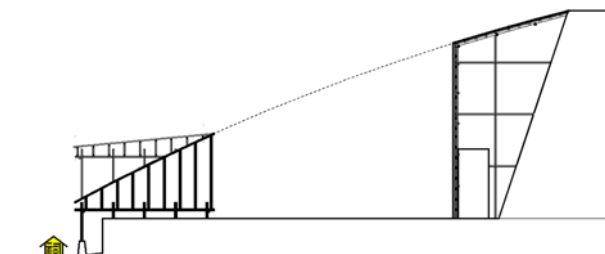


図7 ①村の中に点在する「祈りの空間」への意識切替空間断面図

自然を象徴的に感じる計画

擁壁側の意識切替空間をトンネル空間とし、その中で自然を象徴的に感じるように計画した。中央部分に開口を開け、そこから太陽の光が差し込む。開口を開ける部分を中央部分のみとすることで、中央で感じる太陽の光が際立って象徴的に感じるようにした。また、正午になると斜面の形状を模したトンネル空間の中

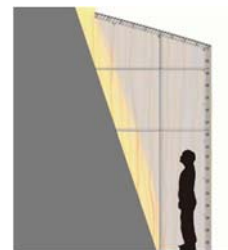


図8 光を象徴的に感じる

ダイアグラム

にある擁壁が光ることによって擁壁の成り立ちを感じる。

地域の祈りの空間と意識切替空間の関係



図9 国道南にある祈りの空間

対象敷地の段丘側には、国道に背を向けた祈りの空間がある。この祈りの空間は、少し低い位置にあるため、国道からは気づきにくい。

そこで、地域の祈りの空間に気づくために段丘側の意識切替空間の西側から4mの範囲は屋根勾配を緩やかにし、空間に入れるように考えた。

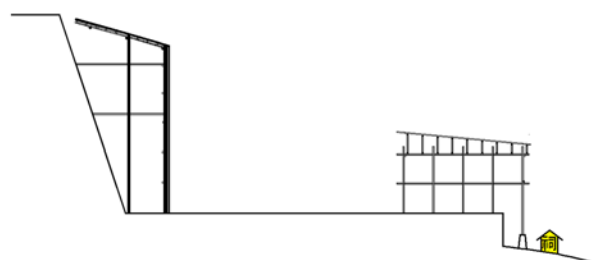


図10 意識切替空間と地域の祈りの空間との関連空間断面図

段丘側の意識切替空間の東側は、木の枠組みにより入る

卒業論文概要

ことができないため、西側に入るができる空間により興味を促すこととしている。空間の中に入り、祈りの空間に気づき、そちらへ歩を進めることで地域を巡るきっかけになると考えた。

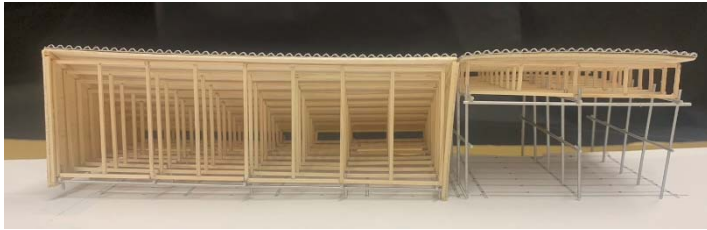


図 11 国道側から南側の意識切替空間を見た写真

地域を巡り、感じること

住宅のそばや村の各場所に地域の祈りの空間があるため、かつては村の人々と祈りの空間が豊かに関わって生活していたことがよく理解できる。この地域は国道との間に段丘があるため、地域を巡っていくと国道が見えず、あまり車の音もきこえなくなってきた、かつての村の人々と祈りの空間が豊かに関わって、静かで穏やかな空間で生活していた状況が感じられる。

意識切替空間の夜の計画

夜は、擁壁側の意識切替空間の中に灯りを設け、危険がないように考えている。段丘側の意識切替空間には、地域の祈りの空間に関わっている箇所だけに灯りを設け、祈りの空間と意識切替空間の関わりを強調させることとした。

② 神の石がある大きな「祈りの空間」への意識切替空間設計

敷地概要



図 12 参道と鳥居

意識切替空間の選定敷地は、貴船神社の参道を分断している国道沿いとする。

地域の祈りの空間



図 13 地域の祈りの空間位置

今昔マップ on the web より地域の祈りの空間位置をプロットして掲載

1933 年と現在の地図

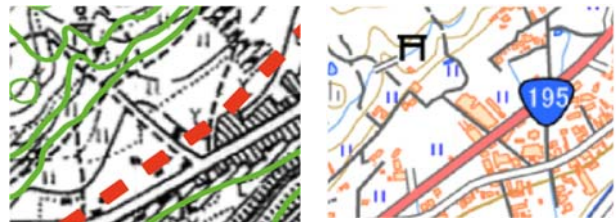


図 14 1933 年の地図と現在の地図

今昔マップ on the web より国道線と現在の等高線を追記して掲載

対象敷地の国道による切断の流れ



図 15 対象敷地の切断ダイアグラム

- I 国道によって分断される前、貴船神社の参道は両側に田畑が広がり、わかりやすかった。
- II 国道が敷設されたことで、参道が切断された。
- III 国道に面して住宅等が建てられるようになってしまったため、参道であるという事実気づきにくなっている。

国道から南北にある鳥居の存在と、この道が貴船神社の参道であることを気づかせるために南北の国道沿いにトンネル空間を設け、国道から南北の鳥居に気づきやすくした。また、参道の両端に長さ 3m の単管を 5m の間隔で配置することで参道の存在を強調するとともに旧街道の鳥居から貴船神社の社殿との間を視覚的につなげた。

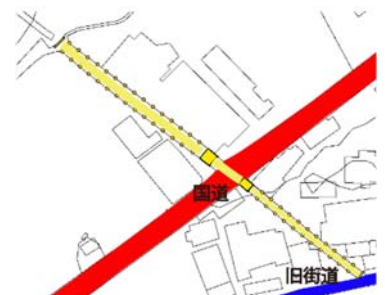


図 16 参道の可視化

自然を象徴的に感じる計画

国道沿いにあるトンネル空間の中に入った時に少し視界が狭まる感覚があり、トンネル空間を抜けた先に天に伸びる単管が見えるため、自然に視線が空に誘導される。この動作により、普段意識していない空と象徴的に出会う。

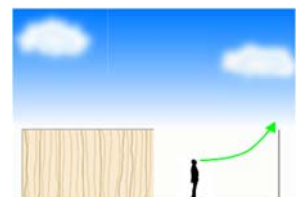


図 17 視線を空へ誘導させるダイアグラム

地域の祈りの空間と意識切替空間の関係

トンネル空間と、5m 間隔で立つ単管が地域の祈りの空間である貴船神社へと続く参道を可視化する。

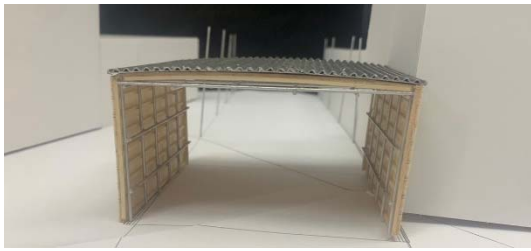


図 18 参道を可視化させる意識切替空間と単管

地域を巡り、感じること

国道を抜けて神社の入り口の鳥居の近くに行くと静かで、虫や自然の音が感じられる。また、神域に入ると、社殿と共に巨石があり、厳かで神聖な雰囲気を感じられる。

④ 田畑の小道とともにある「祈りの空間」への意識切替空間の設計

敷地概要



図 19 国道から北側を見る

意識切替空間の選定敷地には、北側に田畑と小道、住宅がある。

地域の祈りの空間



図 20 祈りの空間位置

今昔マップ on the web より地域の祈りの空間位置をプロットして掲載

1933 年と現在の地図

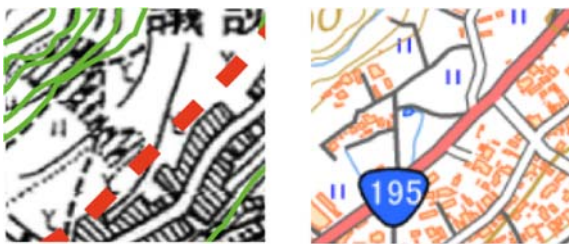


図 21 1933 年の地図と現在の地図

今昔マップ on the web より国道線と現在の等高線を追記して掲載

対象敷地の国道による切断の流れ

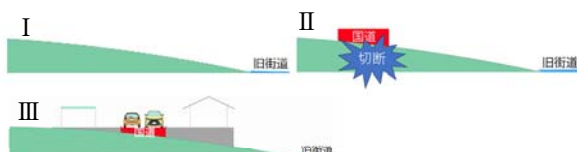


図 22 対象敷地の切断ダイアグラム

I かつては、旧街道から北側に向けて標高が高くなっていた。

II 国道を通したことによって地形が切断された。

III 国道に合わせて盛り土をしたため、北に向けて斜面であったことが気づきにくくなった。

北側に向けて標高が高くなっていたことを屋根によって表現する。屋根勾配が滑らかに上がっていく。

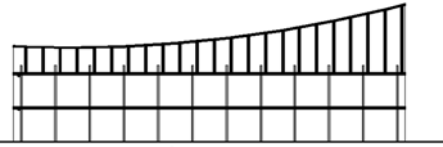


図 23 ③田畑の小道とともにある「祈りの空間」への意識切替空間の断面図
自然を象徴的に感じる計画

南側に壁と出入口を設け、北側には壁を設けないことで狭い空間をくぐった先に開放感を感じられる。狭い出入口の空間から北側に風が吹き抜けていることを感じ、奥へと誘導する。

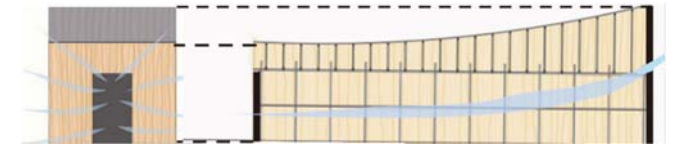


図 24 風による誘導ダイアグラム

地域の祈りの空間と意識切替空間の関係



図 25 出入口を抜けた先にある

祈りの空間

地域を巡り、感じること

この地域を巡っていると、国道が見えていて車の音も聞こえているが、国道沿いとは違い忙しい雰囲気がなく、穏やかな時間の流れを感じられる。北側の少し高い場所から国道の方を見ると国道を介して北側の地域と南側の地域がひとつながりに感じられる。

5. まとめ

学生が自身で造る「意識切替空間」によって、普段地域で過ごしながらか地域空間の豊かさに気づけない状況を打開し、地域の祈りの空間と日常が豊かに関わっていたかつての情景に気づいていくだろう。この提案が地域を大切に思うきっかけとなることを望む。

6. 参考文献

- ・国土地理院地図
- ・今昔マップ on the web <https://x.gd/S3Rhq>